

平成26年度 阿賀野市道徳・特別活動部 活動報告

部長 加藤 千恵(京ヶ瀬小)

1 研究主題

「豊かな心を育て、実践力を高める道徳の指導」(特別活動的内容を含む)

2 研究の概要

- (1) 4月22日(火) 組織の構成、役割分担
事業計画の作成
- (2) 6月10日(火) 講演会(特別活動)
- (3) 11月25日(火) 研究授業公開・協議会(道徳)



3 研究の実際

- (1) 研究授業公開・協議会 11月25日(火) 会場 神山小学校
- (2) 題材名 5学年「だれに対しても」(親切 2-(2))
 - ・資料名 「くずれ落ちたダンボール箱」(出典:「5年生の道徳」文溪堂)
「相手の立場に立って親切に」(出典:「私たちの道徳」文部科学省)
 - ・授業者 阿賀野市立神山小学校 教諭 近 靖子
 - ・指導者 阿賀野市教育委員会教育センター 指導主事 安達 清重 様

(3) 協議

〈協議題〉: 導入と終末の振り返りで「私たちの道徳」を活用したことは、本時のねらいに迫り、児童の道徳的実践力を高めることに有効であったか。

- 第1回事業計画作成において、「私たちの道徳」をどのように活用すべきかが話題となった。そこで本時の授業では、「私たちの道徳」を導入と振り返りで活用することが提案された。
- ・ 2つの資料のどちらがメインなのかが不明瞭であった。思いやりに迫るためには「私たちの道徳」が主資料で、プリントが副資料として使えた。
- ・ 「私たちの道徳」を併用することで資料が2つになる場合、どちらかに焦点づける必要がある。

(4) 指導

- 道徳の授業では「終末後、授業の始まりから自分に変わったところがある。」と子どもに自覚させることが大切である。そのために価値項目に子どもが向かい合って考える場の設定を仕組む。(文章が無くても場面設定があれば十分意味がある。)
- 「私たちの道徳」の意図と、副読本の資料の意図を結びつけることは難しい。
- 「私たちの道徳」は複数学年使用なので、そこを配慮して副読本との関連表を作成することが大切である。また、副読本がたくさんある学校が多いのではないか。一つに絞る必要性もある。H30年度の「特別の教科 道徳」開始までは、「私たちの道徳」と副読本との兼ね合いをチェックしていかなければならない。

4 成果と課題

今回の授業では、「私たちの道徳」の活用法が提案された。また指導者からは価値項目と出合わせる場面設定、自分に置き換えて行動に問うことなど、道徳教育における指導の基本を改めて御指導いただいた。これからは、研修したことを生かして魅力的な教材の開発や活用にも取り組んでいきたい。